



七松小学校 学校だより

令和2年度
2月号
尼崎市立七松小学校
校長 江上佳宏

☆ ホームページアドレス <http://www.ama-net.ed.jp/school/E31/>

進んで読書をする子どもの育成 ～ステイホームは読書活動！～

近年、情報メディアの発達により、子どもだけでなく大人に至るまで活字離れが進んでいると言われています。読書離れに対処するため、平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行され、各学校等において、様々な取組がなされてきました。

「子どもの読書活動の推進に関する法律」では、①「子ども読書の日」を4月23日とする。②都道府県・市町村は「子ども読書推進計画」を策定するよう努める。③公立図書館は、読み聞かせ等の実施、ボランティアの参加促進、障害のある子どもに配慮した図書館サービスを充実する。④「読み聞かせ」「朝の読書」等を通じて、子どもの読書に親しむ態度を育成し、読書習慣の形成を図る。⑤司書教諭の有資格者の計画的な養成・配置に努めること等が策定されました。

今まで勤務していた学校では、この法律により、一定の改善はなされたものの読書好きな子どもの育成は、まだまだ重要な課題であると捉えていました。



本校図書館入り口



学校司書による読み聞かせ

ところが、七松小学校の児童は、読書好きがとても多い。全校児童420名全員が学校図書館の本を借りて読んでいる。また、1年生～3年生児童で、100冊以上読んだ児童は、35名。4年生～6年生で50冊以上読んだ児童は45名。(1月20日現在)

コロナ禍が収束し、本校図書館をご覧いただく機会がありましたら、是非見ていただければと思います。様々なところに進んで読書したくなる環境づくりがなされています。

蔵書数12000冊。学校の授業で勉強した物語の作者が書いた作品紹介など、楽しさだけでなく学びを広げ深める工夫もしています。また、読書週間では「読書ビンゴ」等で様々な分野の本に触れる工夫を行い、読書活動の幅を広げる取組もしています。

読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにするなど子どもの成長には欠かせません。

今、緊急事態宣言が出され、不要不急の外出が制限され、ステイホームが求められる中、例えば、夏休みにご協力いただいた家読(うちどく)をこの時期に、今一度取り組んでいただく。そして、お子様が今読んでいる本をご家庭の話題にさせていただく等、ご家庭と連携して、お子様の読書量と読書習慣をさらに高めたいと願っています。